



劇団、本谷有希子 第15回公演

『甘え』

7/20(木)DVD先行発売。
9/23(金)一般店頭発売。

私にとって、お父さんはかわいそうなのに憎いんだ—

変わりたい自分、変わらない価値観。

それは、生まれ変わる為に必要な儀式だった。

劇団、本谷有希子の記念すべき10周年公演は、「不道德」をテーマにした問題作！

■本谷有希子が挑む“新境地”

劇作家、演出家、小説家、コラムニストなどジャンルを超えて活躍し、鶴屋南北戯曲賞や岸田國士戯曲賞等といった演劇賞を受賞、また三島賞や芥川賞など多くの文学賞にもノミネートを重ね、今最も“旬”な演劇人の一人として熱い視線を集めている本谷有希子さん。

そんな彼女が率いる「劇団、本谷有希子」が、昨年青山円形劇場で上演したのが、今回ご紹介する『甘え』です。



父と二人暮らしで、異常なまでの束縛や暴力をうける純（小池栄子）。自身の価値観の「つまらなさ」と葛藤しながらも、家を出ていくこともできずに閉ざされた生活を送る。変わりたいと願う純が会う新たな価値観とは……。

青山円形劇場の特性を活かしたシンプルな舞台空間の中で、本谷さんが描く自意識に絡めとられた登場人物達が、抜け出したい・変わりたいと願う様は、これまでの本谷作品以上に、強い緊張感と葛藤が伝わってきます。

昨年10周年を迎えた「劇団、本谷有希子」と、その活躍の場をますます広める本谷有希子さんの新たな可能性を、どうぞその目でご覧下さい！

■女優・小池栄子のシリアスな美しさ

朗らかな明るいイメージで幅広い層から支持される小池栄子さん。最近ではドラマや映画等への出演も多く、今注目の女優さんです。

その彼女が今回挑んだのは、本谷さんの描く自意識と闘う、痛々しい程の渴望を抱く女性像でした。

内向的で大人しい性格ながら、その思考やセリフ、そして表情からにじみ出てくるある種のエロシズムを感じさせる演技は、これまでの小池さんにはない、新境地と言っても良いのではないのでしょうか。

一人の舞台役者としての彼女の魅力を、どうぞ堪能して下さい。

●本件に関する問い合わせ先

(株)ヴィレッジ プロモーション担当:糸永(いとなが)

舞台写真やDVDジャケットデータ、サンプルDVDなどを
ご用意しています。お気軽にお問い合わせ下さい。

〒160-0022

東京都新宿区新宿3-8-8 新宿OTビル7F (株)ヴィレッジ

TEL. 03-5361-3031 FAX. 03-5361-3032

E-mail. pr@village-inc.jp

●『甘え』DVD 商品詳細

- ・製品名 : 『甘え』DVD (あまえDVD)
- ・CASTなど : [作・演出]本谷有希子
[出演]小池栄子、水橋研二、安藤玉恵、広岡由里子、大河内 浩
- ・公演記録 : 2010年 5月10日(月)～6月6日(日) 東京：青山円形劇場
- ・発売日 : **先行販売 — イーオシバイドットコムにて2011年7月20日(木)より販売**
PC・<http://www.e-oshibai.com/> 携帯・<http://www.e-oshibai.com/m/>
※一般販売 — 9月23日(金・祝)より一般店頭にて販売予定。
- ・映像特典 : 無し
- ・DVD仕様 : 片面二層式2枚組 / ステレオ2ch / 16:9|LB / リージョンALL / 本編103分
- ・価格 : **4,200円(税込)**
- ・番号など : [製品番号] ECDV011 / [JANコード] 4582172280443
- ・著作 : 劇団、本谷有希子 (©2011 劇団、本谷有希子)
- ・発売元 : 株式会社ヴィレッチ
- ・お客様問い合わせ先 : イーオシバイ通販事務局
TEL:0120-120-481(平日12時～17時) E-mail: shopping-info@e-oshibai.net

●甘え一物語

父(大河内 浩)との二人暮らしに疲れた純(小池 栄子)は父を殺そうとするが未遂に終わる。その後も「父を殺そうとした」という事実が、罪の意識となって純に重くのしかかる。

「私にとって、お父さんはかわいそうなのに憎いんだ。」

どちらともつかない自分の生き方に決着をつけるため、純はこれまで大切に信じてきた自分の価値観を変えることを決意する。

それが、とても不道德な手段だとしても。

●プロフィール

◎本谷有希子(もとやゆきこ)

1979年7月14日石川県生まれ。00年9月「劇団、本谷有希子」を旗揚げ。主宰として作・演出を手がける。07年『遭難、』で第10回鶴屋南北戯曲賞を最年少で受賞。09年には『幸せ最高ありがとうマジで!』で第53回岸田國士戯曲賞を受賞した。また小説家としての活動し、『腑抜けども、悲しみの愛を見せる』、戯曲『遭難、』(講談社)が三島賞候補、『生きてるだけで、愛』(新潮社)、『あの子の考えることは変』(講談社)が芥川賞にノミネート。映画『腑抜けども、悲しみの愛を見せる』は07年にカンヌ国際映画祭批評家週間に正式出品された。2010年秋には2本目となる原作映画化『乱暴と待機』を公開。05年には1年、ニッポン放送「オールナイトニッポン」の金曜パーソナリティも務めた。ジャンルにとらわれず幅広く活動中。『週間モーニング』『ダ・ヴィンチ』『日経エンタテインメント!』にて連載中。

◎劇団、本谷有希子(げきだん、もとやゆきこ)

00年9月、本谷有希子を中心に旗揚げ。専属の俳優を持たない「プロデュース・ユニット」として活動を開始する。自意識に絡め取られた妄想過多な人間を主人公に、独特の劇世界を展開する。07年『遭難、』で第10回鶴屋南北戯曲賞を最年少で受賞。09年には『幸せ最高ありがとうマジで!』で第53回岸田國士戯曲賞を受賞した。本谷なりの「自意識」を主軸に切実で濃密な物語を展開し、幅広い観客層にアピールしている。

劇団、本谷有希子 オフィシャルサイト : <http://www.motoyayukiko.com/>